

令和5年度 第2回山梨県考古博物館協議会議事録

1. 日 時 令和6年2月29日(木) 14:00~16:10

2. 場 所 風土記の丘研修センター 講堂

3. 出席者(敬称略)

(委 員) 新津健、岡美広、小林正人、中村京子、松吉有理子、小林昭治、沼田晃佑、
保坂康夫、坂本なおみ、馬場由美

(事務局) [文化振興・文化財課]森原文化企画指導監、小坂井主任
[考古博物館]高橋館長、柳沢副館長、野代学芸課長、柴田リーダー
三浦リーダー

4. 会議次第

- (1) 開会
- (2) 委員紹介
- (3) 館長あいさつ
- (4) 議事
- (5) 閉会

5. 会議に付した事案等について

- 令和5年度考古博物館事業実績について【公開・公表】
- 令和6年度考古博物館事業予定について【公開・公表】
- 考古博物館利用状況について【公開・公表】
- その他
 - ・考古博物館来館者サービスの向上について【公開・公表】
 - ・国際文化交流について【公開・公表】
 - ・令和7年度特別展(案)について【非公開・非公表】

6. 非公開とした理由

令和7年度特別展(案)について

山梨県情報公開条例第8条第5号及び6号に規定する事項について審議等を行うときに
該当するため(指針第3条第1項)

7. 議事録の概要

- 令和5年度 考古博物館事業実績について
 - ・事務局より資料に沿って説明があった。

(委 員) 山の洲文化財交流展により、いにしえからの4県のつながりを伝えたことには意義があったと思う。このような交流は今後も行う予定なのか。

(事務局) 継続実施に向け各県との調整を進めている。展示以外に、様々なストーリーを各県専門家が語り合える企画なども含め、交流を継続していきたい。

(委員) 40周年特別展については、目を見張る展示物が多く、期待以上の展示会だったと思う。また、発掘された日本列島展も数十年ぶりの県内開催には意義があった。山の国文化財交流展も地域交流の深さを知る良い機会だった。私たちの研究室についても、県内の小中学生が郷土に対する愛着や探究心を深める場であり、地域の方が地元のことを知ることのできる良いイベントだった。今後も続いていくと良いと思う。

今年度の特別展の入場者数は過去と比べてどうだったか。

(事務局) 特別展の入場者数については、「縄文」カテゴリーでは実質歴代第1位、海外展を含めでも好成績だった。

(委員) 外国人への博物館案内に対応しているか。

(事務局) ARアプリにより多言語音声ガイドの仕組みを整備しているほか、外国語を話すことのできるボランティアガイドによる対応も行っている。

(委員) たくさんの体験活動については小中学生にとって魅力的だと思う。資料に記載されている火起こし体験や勾玉作り体験以外の企画もあるのか。

また、ものづくり教室については今年度多くの方に参加いただいているようだが、今以上の受け入れも可能なのか。

(事務局) 資料には代表的なものを記載したが、これ以外にも、土器作りや土鈴作り等多くの体験を実施している。学校からの要望に基づき企画を行うこともある。

体験人数については、現在の施設規模・職員体制からするとこれ以上の受け入れは難しい状況である。

(委員) 縄文時代を中心とした展示・企画が行われているが、中世遺跡・近世遺跡についての企画展も開催していただければと思う。

(事務局) 常設展示において中世・近世の展示を行っており、最近では3年前に甲府城をテーマにした特別展を実施した。今後も適時開催を検討したい。

○令和6年度考古博物館事業予定について

・事務局より資料に沿って説明があった。

(委員) 講座について、現地・オンラインのハイブリット開催を止めて現地開催にするものがあるが、その理由を教えてほしい。

(事務局) 博物館に来ていただけない実態がある。画面や資料だけで満足いただくのではなく、実物を見ていただきたいという想いから現地開催にした。

(委員) 考古学を通じた県全体の地域活性化に向けた取り組みを行っているか。

(事務局) 地域活性化に向けた取り組みとして、周辺施設と連携したスタンプラリーを行っているが、近年では参加者が減少している状況。今後は、他の博物館と連携したスタンプラリー等を検討している。

(委員) 日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」を活用した地域活性化の取り組みも進めてほしい。

(事務局) 当該日本遺産は、平成 30 年に認定され、令和 6 年度に国による継続審査を控えている状況。審査において、取り組み内容、実績や将来性について認めていただくためにも、新たな取り組みの打ち出しも含めて、県全体で取り組んでいきたい。

(委員) 来館者駐車場内や館内でイベント情報を知ることができないと感じている。駐車場内掲示板、館内トイレへの掲示等により、周知を行うと効果的だと思う。

また、平日や夜間のイベントも企画していただけると土日・昼間に都合の悪い方からの参加が見込めると思う。

(事務局) 来館者の呼び込みの導線を考慮した周知を行っているところであるが、駐車場内や館内の方への周知についても検討したい。また SNS を活用した広報についても引き続き強化していきたい。

次年度については、七夕イベントなどを平日に実施する予定であり、夜間イベントとしては「星を見る会」の実施を企画している。引き続き、様々な方に足を運んでいただけるイベントを企画していきたい。

(委員) バックヤードツアーを企画してはどうか。

(事務局) 収蔵品管理・セキュリティの問題について慎重な検討が必要と考えている。

(委員) 日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」について認知度を上げる取り組みを進めてほしい。

(事務局) 日本遺産のラッピングをした縄文タクシー、ロゴマーク作成、PR 動画公開などの取り組みを行っているが、引き続き認知度向上に向けた取り組みを進めたい。

(委員) 石積みのワークショップはあるのか。

(事務局) 県埋蔵文化財センターにて模型を利用した石垣積み体験イベントを実施しているが、実用的な石積み体験については行っていない。

(委員) 縄文時代の出土品が郵便局の風景印になっているが、郵便局と連携した取り組みを進めてはいかかがか。

(事務局) 考古関連の風景印の紹介など、郵便局と連携した取り組みについても今後検討したい。

○考古博物館利用状況について

・事務局より資料に沿って説明があった。

(委員) 郡内地域の学校利用者の更なる増加や、インバウンド来館者増加も視野に、世界遺産である富士山関係のイベントを発展させ、富士山関連の施設との連携を行ってはどうか。

(事務局) 過去には富士吉田市の博物館と連携したワークショップや、中の茶屋における出土品展示を実施したことがある。コロナ禍以降は途絶えているので連携復活について検討したい。

(委員) 富士山ミニ展示ではどのようなことを行っているのか。

(事務局) 富士山に関連する出土品について、時代を追って展示している。今回は弥生時代の、富士山の火山灰が確認された遺跡の遺物を展示した。

(委員) 令和4年度の山梨県の観光見込者数は約2千7百万人。来県目的としては、自然、温泉に続いて19%の方が名所・旧跡・歴史を目的に来県している。この方々に上手くPRすることで更なる入館者増加が見込めると思うので検討していただきたい。

外国人観光客については、オーバーツーリズムの話題をよく耳にするが、宿泊を伴う外国人観光客はピーク時に比べまだまだ少なく、今後数値の回復が想定されるので、外国人向けの情報発信も有効だと思う。考古博物館の外国人来館者の内訳を見ると、欧米の方が最も多く、欧米の方の関心が高いことが窺えるので、欧米圏の方への発信強化も効果的だと思う。キャッシュレスも追い風になると思う。

学校関係だと静岡・長野の利用が少ないという印象なので、これを取り込めるような取り組みを進めるべきだと思う。

また、ふるさと納税の返礼品として体験コンテンツを検討していくことも効果的だと思う。すでに県立美術館では返礼品として体験コンテンツを提供しているので、考古学博物館でも検討してほしい。

(委員) 学校関係の利用状況を見ると、人数の少ない市町村では、市町村内の博物館等を訪ねている例もあるかと思う。

今後の学校利用者増加に向けた提案として、紙媒体よりも電子での案内が有効だと思う。例えば名刺サイズのカードにQRコードをつけた案内を行うと子供の興味を引く魅力的な発信になると思う。

また、教員の働き方改革もあり、来年度は夏休みが長くなる学校があるので、子供を集めやすくなることも踏まえてイベント等を企画していただくと良いと思う。

(事務局) QRコードによる案内は実施しているが、ご提案いただいたカード型の案内も含め、更なる工夫を行っていききたい。

(事務局) 博物館や歴史的な遺産を、地域振興や観光資源として活用させるヒストリカルブランディングを進めていきたい。コモディティ化・一般化することなく、そこにしかないもの・オリジナリティを追求する姿勢で、県としても取り組みを進めていきたい。

○その他

○考古博物館来館者サービスの向上について

- ・事務局より資料に基づき説明があった。

(委員) ミュージアムショップについては協力会で運営を行っている。前回委員からトートバックや手拭いの販売について提案があったが、過去同様の商品の販売実績が振るわなかったこともあり現在は販売していない状況。今後も新たな商品開発に向け検討を進めたい。

(委員) 縄文モチーフ陶器について、お茶を立てることができるか。

(事務局) ものによっては、お茶を立てることができるサイズのものもある。

(委員) 人気がでると思う。高い値段で販売しても売れると思う。ふるさと納税の返礼品として活用できるか。

(事務局) ふるさと納税については課題等整理が必要だと思うが、担当部局にも話を聞いてみたい。

○国際文化交流について

- ・事務局より説明があった。

台湾新北市立 十三行博物館主催のイベントへの招聘を受けた。令和6年4月下旬に、フォーラムと展示・体験イベントに参加し、山梨県のPRを行う。

韓国の国立清州博物館において、令和7年度に山梨展を開催予定である。県立博物館と協働予定。

- ・委員からの意見等はなし。

○令和7年度特別展(案)について 【非公開】

以上